

様 式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19（共通）

科学研究費助成事業 研究成果報告書



令和 2 年 7 月 15 日現在

機関番号：32602

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2016～2019

課題番号：16K16830

研究課題名（和文）日韓両言語における中断節の語用論的機能に関する対照研究

研究課題名（英文）A contrastive study on the pragmatic functions of suspended clauses in Japanese and Korean

研究代表者

金 廷ミン（KIM, Joungmin）

亜細亜大学・経済学部・准教授

研究者番号：30510044

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,200,000 円

研究成果の概要（和文）：本研究は主節を随伴せず、「けど」「し」のみで発話を完結する「中断節」対象に、日韓対照言語学の観点から分析を行ったものである。特に日本語と韓国語の中断節の種類別生起頻度と対応関係の解明を中心課題とし、日韓ドラマの対訳集、韓国ドラマの日本語吹き替え、英語を基準言語とする映画台詞の日韓対訳集など様々な用例に基づいて実証的な分析を行い、両言語間における中断節の語用論的機能に関する類似点と相違点を明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

従来日韓対照研究分野では主に日韓対訳小説の用例が分析に用いられてきたのに対して、本研究では韓国原作ドラマの日本語吹き替え、英語の映画台詞の日韓対訳集を用いた点で分析対象としたデータに新規性があり、より客観的な研究成果を提供できた点で学術的意義がある。また、本研究では日韓両言語における中断節の種類別使用頻度と対応関係を客観的な数値でもって実証的に分析した。その結果、形式的に類似しているように見える日韓の中断節には、その頻度と語用論的機能において差があることが明らかになり、今後、言語類型論における中断節の通言語学的な変異および動機付けの解明において手助けになるものと考えられる。

研究成果の概要（英文）：This study is a contrastive study on the pragmatic functions of "suspended clauses", i.e. subordinate clauses such as kedo, shi are used as main clauses, in Japanese and Korean. The main purpose of this study was to investigate the frequencies of suspended clauses in each language and analyze the corresponding relationships between two languages, using data extracted from Korean dramas and their Japanese dubbed versions and Japanese translations.

研究分野：日韓対照言語学

キーワード：中断節 ドラマ吹き替え 語用論的意味 日韓対照言語学 対応関係

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。

1. 研究開始当初の背景

日本語と韓国語には従属節と主節からなるいわゆる「複文」が存在する。しかし、実際の話し言葉に着目すると、「マジやばいんだけど」「今日は5限もあるし」のように主節は現れず従属節のみで発話が終了する「中断節」の例が顕著に見られる。

日本語「中断節」に関しては、Ohori(1995)、大堀(2002)の先駆的研究をはじめ、白川(2009)に代表される一連の研究が存在する。ところが、日本語と多くの類似性を共有する韓国語にも中断節の例(「nuntey(けど)」「nikka(から)」「ko(て/し)」など)が豊富に観察されるが、両言語の中断節に特化した対照研究はほとんど見られておらず、これらの中断節の対応関係も明らかにされていない。また、近年関心が高まってきている言語類型論分野における中断節の研究(Evans2007)においても、英語などの欧米言語に関する議論は多く見られるものの、日本語や韓国語のような東アジア言語、膠着型言語の中断節に関する記述は乏しいという現状がある。

2. 研究の目的

このような背景を踏まえて本研究では大きく3つを目的とした。まず、日本語と韓国語の豊富な用例(日韓のリメイクドラマの台詞、小説、映画の台詞など)を収集して両言語の平行コーパスを構築した上で、各言語における中断節の種類と諸形式の生起頻度を調査し、両言語母話者の中断節の使用実態の把握を目的とした。

次に、日韓両言語における中断節の種類とその対応関係の明確化、中断節の語用論的機能拡張のパターンに関する類似点と相違点の解明を行い、言語類型論分野への貢献を目指した。

最後に実際両言語において頻出、多用される中断節の種類と機能が、日本語・韓国語教育現場において、どのように教授されているのか、中断節の教育現状を把握した上で、今後の韓国人日本語学習者、日本人韓国語学習者を対象とした外国語教育分野への改善策など、教育的提言を与えることを目標とした。

3. 研究の方法

研究開始当初は日韓リメイクドラマに現れる同場面を抽出して中断節の用例を収集する予定であった。しかし、両国のリメイク版は必ずしも原作通りに再現・構成されているわけではなく、それぞれの国の事情や時代的背景などによって脚本の編集、場面の追加または、削除などが行われており、本研究課題を遂行する上で十分な場面数(用例数)の確保が難しいという判断に至った。そのため、日韓リメイクドラマからは日本語、韓国語それぞれの言語における中断節の用例を集めることに方向転換した。

その代わりに韓国原作ドラマの日本語吹き替え版に加え、英語を原作とする映画台詞の日韓それぞれの対訳集より中断節の用例の補強を行った。前者については字数制限のある字幕翻訳に比べて、実際の日本語の話し言葉に近い台詞に訳されていたため、談話における中断節の使用状態および、語用論的機能を分析する上で有用であると判断した。後者に関しては、従来の日韓対照研究分野では主に日本語と韓国語の2言語間の小説対訳集を用いた分析が多かったのに対して、英語からの日韓それぞれの言語に訳された対訳集の用例を用いることによって、より客観的なデータに基づいた分析の展開が可能であると考えた。

以上により収集した用例をすべて書き起こし作業を行った上でエクセルにデータベース化し、中断節の種類別頻度調査、日韓両言語における中断節の対応関係の分布を数値化した。

4. 研究成果

本研究の重要な研究成果は日本語と韓国語の中断節の種類別生起頻度と対応関係を明らかにした点である。本研究の調査結果では、韓国ドラマの日本語吹き替え版、英語の台詞の日韓対訳集いずれの場合においても日本語よりもむしろ韓国語のほうが、中断節の種類も豊富で、使用頻度も高いという興味深い結果が得られた。この研究成果は日本語の話し言葉において中断節が非常に生産的に使用されるという従来の研究結果に対して新たな知見を与えることができた。

まず、これまで形態・意味的に対応する形式と考えられてきた「けど」と「nuntey」、「し」と「ko」に焦点を当てて対照分析を行った。その結果、韓国語の「nuntey」は「けど」よりも出現頻度が高いだけでなく、中断節として体現する語用論的意味範囲も広いことが分かった。また、「nuntey」には「けど」よりもむしろ、「裸の終止形」「終止形+終助詞」が対応している場合が多いことが明らかになり、今後の日本語教育・韓国語教育分野においてこれらの形式を導入する際に再考の余地があることが示唆された。

次に「し」と「ko」について対照分析した結果、両形式は先行文脈への追加・補足を述べる際に用いられる点で共通していながらも、日本語の「し」よりも韓国語の「ko」のほうが先行文脈との関連づけを、より明示的に示す傾向が観察された点で微妙な相違が見られた。

さらに、英語を基準言語とする映画台詞の日韓対訳集に見られる中断節を分析した結果においても、日本語よりも韓国語訳において中断節の生起頻度が高く現れた。また、両言語において頻出・多用される上位 4 つまでの形式は、日本語は「から」「けど」「が」「ば・たら」の順に、韓国語は「nuntey」「tako」「ketun」「ko」の順に使用頻度が高いことが分かった。

本研究を通して、日韓それぞれの言語において好まれる中断節の種類を把握することができ、表面上類似しているように見える中断節であってもその頻度と位置づけ、獲得する語用論的意味の違いがあることを明らかにすることができた。この成果は文法的に類似している言語同士の対照であるからこそ意味を持つものであり、言語類型論などの一般言語学へ寄与できるものとする。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計5件（うち査読付論文 4件／うち国際共著 0件／うちオープンアクセス 5件）

1. 著者名 金廷珉	4. 巻 61
2. 論文標題 英語台詞の日韓対訳集における中断節の特徴分析	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本語学研究	6. 最初と最後の頁 37-52
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） DOI : 10.14817/jlak.2019.61.37	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 金廷珉	4. 巻 84
2. 論文標題 文末の「nuney」に対応する日本語の形式分析－韓国ドラマの日本語吹き替え版を用いて－	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本文化學報	6. 最初と最後の頁 221-236
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） DOI : 10.21481/jbunka..84.202002.221	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 金廷珉	4. 巻 72
2. 論文標題 発話末の「ko」に対応する日本語の形式 - ドラマの会話文を中心に -	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 日本語文学	6. 最初と最後の頁 91-108
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） http://dx.doi.org/10.18704/kjll.2017.03.72.91	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計6件（うち招待講演 1件／うち国際学会 5件）

1. 発表者名 金廷珉	
2. 発表標題 英語を原言語とした日韓対訳集に見られる中断節の現れ方	
3. 学会等名 韓国日本語学会第38回国際学術発表大会（国際学会）	
4. 発表年 2018年	

1．発表者名 Kim Joungmin
2．発表標題 Sentence-final use of ko in Korean and shi in Japanese
3．学会等名 8th International Contrastive Linguistics Conference (国際学会)
4．発表年 2017年

1．発表者名 金廷珉
2．発表標題 「ko」で言い終わる発話に対応する日本語の形式 ドラマの会話文を中心に
3．学会等名 韓国日本文化学会（国際学会）
4．発表年 2016年

〔図書〕 計1件

1．著者名 ブラシャント パルデシ、堀江 薫	4．発行年 2020年
2．出版社 ひつじ書房	5．総ページ数 77-96
3．書名 日本語と世界の言語の名詞修飾表現	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6．研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----